

令和元年度 第3回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和元年度 第3回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和2年2月20日(木) 18時00分～20時00分
場所	宇治市役所 6階 602会議室
出席者	(委員) 榑原会長 青木委員 井戸本委員 内田委員 原田委員 瀬野委員 山田委員 (ラーニングコーディネーター) 坂上LC 大村LC (事務局) 岸本教育長 伊賀教育部長 上道教育副部長 市橋教育支援センター長 栗田教育総務課長 三村学校管理課長 久泉生涯学習課長 吉田学校教育課長 渡邊学校教育課副課長 石田学校教育課総括指導主事 石田学校教育課学校教育指導主事
配付資料	○宇治中学校ブロック小中一貫教育だより ○宇治黄檗学園学力向上に向けての取組 ○南宇治中学校ブロック小中一貫ほけんだより

開会挨拶

- ・岸本教育長 開会挨拶

報告及び協議事項

1 令和元年度宇治市小中一貫教育の取組について

(1) 全体報告

事務局より説明

(2) 中学校ブロックの取組報告

ラーニングコーディネーターより説明

- ・宇治中学校ブロック
- ・黄檗中学校ブロック
- ・南宇治中学校ブロック

(会長)

3ブロックのお話から、委員のほうで聞いてみたいこととか伺いたいことあるかと思いますが、私からお伺いします。他のブロックにも通じると思うが、学力向上に関わって、授業改善や授業研究についての話があった。たとえば宇治中ブロックの国語力の向上を通じて授業改善を進めることができたお話で、今年度、ラーニングコーディネーターがご覧になっていて、授業改善を進めることができた辺りについてご指摘いただけますか。

(ラーニングコーディネーター)

宇治中ブロックで授業について顔を突き合わせて話す機会というのは年3回ぐらいです。この話し合いだけで授業の改善が進まないの、教科部会の中で、一年間通して、主体的対話的深い学びという3つの視点で分けて考えることを進めました。

山城授業スタンダードを元に、どこを膨らませて行えば、深い学びに繋がるようになるかを各教科部会の中で確認し、授業改善の視点を明確にしました。教科部会では、日々の実践の様子についても随時交流できるような時間を持つという意識で進めました。

授業改善の意識というのは、間違いなく、取組の中で（職員の意識に）ついたと思います。各校の研究授業においては、話し合い活動、効果的な話し合い活動をどう持っていくか、主体的な学びはどういう取組であるか、提示の仕方が有効であったかとか、そういう視点でも、授業を考える意識が育ってきた。

（会長）

年3回、限られるかも知れないが、これをきっかけに、日々の授業をされる教諭の方々のスタイルというか、授業のあり方がどう変わることにつながっているのかなというところに、感心があります。この小中一貫の交流という活動を通じて、小中学校の先生方がご自身の授業をいかに変えて行くきっかけになっていっているのかなという、ある意味仕掛けというか、動きをより伺えればなど関心があります。もし何かご教示いただけるものがあれば。

（ラーニングコーディネーター）

「主体的、対話的で深い学び」というのはキーワードとしてあります。授業を進める中で大切にしているところです。どんな仕掛けを行ったかというのは、本当に様々ですが、学力の向上については、各校の実態に合わせて重点研究の中で取り組む中でも扱われるなど、意識が高まっている。

（委員）

中学校では、小学校教諭が授業研究を参観し、中学校教諭が小学校へ行って授業をする機会がありました。ラーニングコーディネーターの働きかけが、今後の交流もスムーズにさせられると思われる。

（ラーニングコーディネーター）

本ブロックでは、年4回の研修を行っている。最初、中学校で授業を公開する形で、菟道小学校、菟道第二小学校の教師が全員参加する形である。そこで中学校の授業スタイル、中学校で研究を進めている話し合い活動について共有したうえで、小学校での話し合いの仕方を考えていく事にも繋がっている。

小学校では、菟道第二小学校が研究授業として9つの教科で公開授業を行い、宇治中学、菟道小学校の先生が見に来る形で進めました。

（会長）

系統化という問題、成果があるが、小中一貫というのは、もちろん小中の9年間を見通すとか、一貫したことが主旨だが、子どもの発達段階とか、学びの適宜性とかを考えると、系統化というのは、どこまで追求するのか、あるいはどういったことについての系統化をより求めていきたいのであるが、どの様に考えているか。

（ラーニングコーディネーター）

主体的、対話的で深い学びの追及ということで進めている。話し合い活動をいかに進めるのか、特に小学校では、今年度、2年生、4年生、6年生で研究授業を行った。グループで話し合う中で、ホワイトボードを使って、その班ごとにまとめた中身を書いていく。その内容を黒板に表示し、自分たちで説明していくという形を進めてきました。

2年生で行うと、誰が書くのだとか、どの意見を書くのか、イメージである子の意見を決定することが優先され、グループの子は、ただ一所懸命書き写して、読むだけになってしまう様子から学齢的に早い取組とも思えた。4年生ぐらいになると、班の中でしっかりと話し合っ、読み手を考えて書いたり発表できていたり、となるので、学習の仕方について、有効な学年が見えてもきた。それをもって、中学校に繋げて行く形を見据えていきたい。

（委員）

宇治黄檗学園では、黄檗中学校と宇治小学校とそれぞれ目標を持って進めるが、学力の例であると、小学校では、全担任が国語を担当しており、中学に入ると、国語科の教諭しか教えないことから、どうしても国語力という視点だと、社会でも数学でも国語の力は大事だというもの、なかなか9年間を通した系統的な指導には、**まだ時間を要する。**

しかしながら、中学校の国語の力というのは、国語の教科だけではなく、どう身に着けていくのが課題。対話力であったり、プレゼン能力であったり、そういった機会がどの教科も出てくるので、その機会を逃さずに指導できるよう教師が指導方法を身につけていく。こういったスパイラルな取組をもって、いわゆる課題解決型学習の実施をどんどん進めていく。

本校の主体的、対話的で深い学びを視点においての授業改善は、ここに繋げており、いろいろな取組を行っている。中学校では中間テストを廃止し、単元テストにしている。これも小学校はほとんど単元テストで行っているので、そういう意味で、中学校でもやってみようというということで、1、2年で系統的に試している中で、結果はどうかは楽しみでもあります。

あらゆる所に系統的な部分を作っていないと、小と中の中で途切れてしまう、というのを実感している。

(会長)

いろんなアイデアを出して、様子を見てみようみたいな感じで、よろしいですね。

(委員)

令和元年2年3年と都路里さんのお茶の件について伺いたい。

(委員)

これは京都府の指定を受けたものである。8年生の発表が基本となっている。プレゼン学習を7年生で行い、8年生で本発表に取り組み、9年生では、宇治市役所への提言を宇治学の中で取り組んでいる。

令和元年度は、今の8年生、来年度は今の7年生がこれに取り組むことになる。3年間は指定を受けておるので、今の6年生までが、都路里さんと一緒に、授業をするという形で進めている。

あるグループでは、宇宙食に宇治茶を取り込んで、宇宙でお茶を飲む体験をして、それを発信したら広まるのではないかとアイデアが出ました。他にも空港でお茶を配るという意見なども多々でした。いろんな発想をもって、宇宙食にお茶を入れようという発想を議論していました。

(委員)

意見が出て面白いですね。

(委員)

保護者の方は、どういうふうに思っておられるのかなと思います。小学校に入る時に、説明を受けたと思うのですが。その後のことについてはどうなのかと思うところです。

例えば、懇談会等の保護者の方との交流の機会や、子どもが持って帰ってくる学級だよりもあるが、保護者の意見は届いているのか。学校側が目指しているところに保護者の方がついて行っているというあたりではどうか。

(委員)

保護者アンケートの取組などは、新聞、ホームページなどで発信しているので、発信力は自負していますが、「初めて聞いた」等の声はある。意見にはマイナスイメージを持って言われる場合もあるが、対立の関係にならないように注意しつつ、真摯に受けている。

学力に関しては、今までにない取組を進めている。例えば、単元テストを中学校で実施するなど、学力向上の取組を小中一貫して進めるが、全員に理解を求めるのには時間がかかると思う。

アンケートの中で、大変興味深く捕らえているのは、「わからないことがあったら先生に聞きますか」という項目についてです。「よく聞く」という人数が去年は25%だったが、今年は33%になりました。たった8%しか変わらないではないか、と見るのではなくて、25%ということは、4人に1人を意味しており、児童生徒規模で考えたら、かなりの人数となり、100人200人単位で増えていることになる。保護者の評価に「子どもたちの頑張りを評価していますか」という欄があるが、今年は17.8%増えている。

一方で、課題もある。学校が楽しいと感じている子の発生率は変わっていない。分析もして行かないといけないし、批判の部分もあるので、地道な説明が必要とは思われる。他校が取り組んでいないことを進める厳しさというのは、今さらながらではある。

(委員)

保護者が、先生に聞けるというのは、教職員の方々が、持っているクラスの子どもさんにちゃんとアピールして、それを保護者に伝えてもらっているからだとも考えられます。

(会長)

どの学校も、新しい指導要領のスローガンというか、今充実させていただいているということの投影をお話しいただいた。南宇治ブロックの対話というのは、もちろんクラスメイトなり、大事だと思うところである。教材との対話とか、ある意味では自分との対話とか、いろんな解釈も適宜あると思われる。話し合いの大切さについて、授業改善とか学力向上につながりということで考えると、小学校の中学年、高学年での能力差というか、同じクラスにいるが、学力差が大きくなっていく面があるので、そうした時に、個別学習というか、個々の能力にあった学習がとても大事ではないかなと考えている。

中学生には学びの支えというか「ああなるほど」と伝わる指導になると思われるが。どうか。

(ラーニングコーディネーター)

習熟に関しては、もちろん差はあるものだと承知はしているので、誰一人取りこぼさないというのが当たり前の姿勢となる。その中で、自己対話もそうですし、教材との対話でもそうですし、最終、個人の学びとして返るっていうところを意識できたら、という話はしている。

中学校で大切にしていることだから、小学校でもこういった時間とか機会とかを作れたらなという話を、「授業づくり部」で進めている。

学級経営の部分とも重なるが、たとえば学習時に苦手な子が得意な子に聞くことができるとか、仲間づくりの面でも、この対話を大切にしたい学習が活きている。授業者自身がイメージを持っている必要があるが、単元を見通して、学習形態や、どういった力をつけさせたいのかについても話を進めている。

(会長)

授業見学や公開授業は、スタイルにも引っ張られているところもあるのではないかな、と思うところがあり、「見てください」という授業というのは、先生が主役の授業になりやすいですね。

(委員)

パフォーマンス的なものになりかねない。

(会長)

そういう授業もあってもいいと思うが、それが教員の授業行動に影響を与えて行くのかなということが、実質的な小中一貫とか授業改善では大事なかなとは思っている。難しいこととはわかっているのですが、最後は先生方が変わっていただくというか、今までのものを大事にしながらも「こういうこともできるのかなあ」とか、「こんなこともやってみたいなあ」ということを教師自身が変わっていただかなければ。

こういう話を聞いて、最後は本人の所に返ってくる話なので、またそういうことも含めてご議論をいただけるとありがたいかなと思います。

(委員)

小中一貫教育を進める中で大事にしたいのは、授業内容のインプットとアウトプットについて、系統的に指導することを通して、力を段階的につけさせることです。

インプットの例としては、人の話を聞くということがあります。小学生にしても中学生にしても発達段階に応じた聞き方というのがあると思いき、この点に注目して指導しています。アウトプットについては、振り返りが大事で、生命線であると考えています。小学校の低学年では、文字を書くのが、大変で、いろんなことを言葉で表現し、その中で、相手に伝えようとしますが、中学年、高学年、中学生になってくると、文章を書き、話すことによって、相手に訴えることができるし、自分自身も振り返ることができる。この流れを確認してすすめている。

学力の一部としてとらえている全国学調の成績は、伸び悩んでいます。継続的に取り組むことによって、将来的に社会で自立できるような力をつくのではないかと考えている。インプットとアウトプットの重要性について小・中学校で共有し大事にしていこうと意識している。

2 令和元年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について（報告・協議）

(1) 協議会の開催

事務局より報告

(2) 委員による中学校ブロックの取組視察

(会長)

経緯をご説明いただきましたが、確認しておきたいことはあるか。

それではブロック毎に行われた視察報告をします。

最初の北宇治ブロックについて報告を申しあげる。二人で伺いました。校長先生のご案内で公開授業を拝見しました。当日に至るまでに、その小中学校の教員が事前に、何の授業を見るのかを決め、狙いや組立等について話し合いを重ねていることを強調されていたことが印象的でした。つまり、お客さんとしてではなく、自分たちの授業となるよう臨んでいるということを強調されていたように思いました。

授業を見せてもらうというのは、教員にとっては、第三者的な立場で見るという良さもあるのですが、自分が授業をするのだったらという形で組立に臨んでいるというお話を伺えたことがとても良かった。公開の場に至るまでに、小中学校の先生方が交流というか衝突も含めて授業をやっていただけということを見られたことが良かったというふうに思った。

(委員)

木幡中に初めて行かせていただいた。学校のスケールと、生徒数にすごく驚きました。その中で、新入生半日体験入学を見学させていただきました。中学1年生による、新入生への学校紹介や楽しい劇での説明というのがあり、体験入学に参加した小学校6年生の子どもたちは食い入るように見ていて、細かいことやらも、笑いを交えながら、きちんと1つ年が上の先輩から教えてもらって、すごく楽しそうで、身につまされたというか、子どもたちも伝わったと思う。

その後、1年生全員によるものすごくレベルの高い合唱を聞かせていただいたりして、ひとつ上の先輩だけど、「自分たちもこんなできるかなあ」とか、そういうのも感じたのではないかなと思っています。

あと、校長先生との対話の中で、御蔵山小、木幡小というマンモス校、岡屋小の分散進学、また、笠取、笠取第二という僻地校という、多様な小学校との連携の大変さというお話を伺いました。連携については、ブロック内のコーディネーターの先生方の連携がすごく重要になってくるし大変だと思いますが、一層発展されることを願っています。

(会長)

新入生半日体験入学では、児童数の多い小学校順に会場に入場していました。人数の少ない笠取小学校は最後に入って、多くの目に迎えられることに加え、最後まで歓迎の拍手も大きかったと思うし、非常にいい雰囲気だったと思います。

中学生1年生は、中学校では一番下だけど、6年生がやって来ることで先輩として、お兄さんお姉さんの顔をできるので、いい機会だったのではないかなと思う。

次に、南宇治ブロックはいかがですか。

(委員)

体験入学とかいうのは、見たことが無かったので、大変新鮮でした。保護者への説明の中で、すごく雰囲気が良くなってきているところを校長先生が話をされており、保護者の方もこういう話を聞いたら、安心して入学していけるのかなと印象を受けました。

(委員)

授業体験をする時は、各小学校の6年生がそれぞれの中学校の授業を受けるっていうスタイルが多いと思うのですが、南宇治中学校ブロックでは、各校の小学生が混ざって、中学校の授業を体験するというのを説明された。中学校入ったら結局は混ざってしまうのだから、一回そういうのを経験することは良いのではないかなと、思いました。

(会長)

委員のお話にありましたが、保護者の説明と子どもさんの授業を並行して実施しておられたかと思いますが、その辺にも工夫が伺えると思いました。

では、最後になりますけど12月14日の宇治中学校ブロックに行っていた委員さんはおられますか。

(委員)

宇治中学校の「宇治中 21」へ行かせていただきました。地域行事とありますが、別々の小学校、中学校が集まってやっているという違和感が全く無かったのがすごいと思いました。

先ほど、ラーニングコーディネーターから説明をいただいた中で、神明(小学校)のお話がありましたが、中学校のほうでコーディネートするというのは、色々苦勞をされているのだなと感じました。あと、校内を拝見したり、保護者さんともいろいろお会いしお話を伺ったりしました。

(委員)

驚いたのは、その会場では皆、自身のお箸とお茶碗を持って、持参されていて、それも何年前からかわからないが続いているとのことで、これはエコの考えで、今の SDGs という考えにもつながるのでいいな、と思いました。他にも自家製の羊羹を食べるとか、いろいろなことをさせていただいたりして、進め方とか、何かそういう面がちょっと違ったので、新鮮に思いました。

開会から、あまり固く無く、ざっくばらんな感じで、(自分の地域でも) こういうのがあるといいな、と思っておりました。

(委員)

「ふるさと宇治 21」を見るのは 3 回目ぐらいになります。特に思った事は、それぞれの団体が集まられて一つの物を作られるのだけでも、本当に温かみのある、皆さんが一つの物をスクラムを組んで自然にやっておられることを見て、「ああ、すごい地域だな」と思いました。

その中で吹奏楽が演奏されて、地域の方が温かく見守って、学校を本当に包み込むような形で支援されているなというのを本当に実感したのです。

学校は、地域の方の支援がなければできない組織なので、宇治ブロックについては本当にすごいなというふうに感じました。どの学校もですが、やっぱり地域があつての学校なので、今後もどういふ地域連携ができるのか、ということ改めて考えさせてもらった視察でした。本当にありがとうございました。

(委員)

地域との連携と各ブロックさんおっしゃるが、私たちのブロックでは土曜日、日曜日に地域行事があるのですが、教職員の方のお手伝いというのは本当にできるのでしょうか。たとえば、体育振興会では、先生方も一緒に何人かいてもらっていましたが、今度からだめになりました。

私たちの地域では、毎月 1 回行事があつたりするのですが、何年か前は、若い先生とか、子どもさんが小さい先生は土曜日にも遊びに来てもらっていたのですが、それもない。その辺はやっぱり難しいのでしょうか。

地域の行事には、保護者の方や地域の方がたくさんおり、「あの方は、小学校の何何先生ですよ」「何年生担当なのです。」などの話題になります。そういう交流というか、先生方にも地域のことを知っていただきたくて、土曜日日曜日の行事に、普段は学級参観にも来られない保護者が子どもを連れて参加したりもありますので、参加をしてもらいたい。

(委員)

働き方改革とは逆行するが、これから広い意味でもこの国が目指している学校というかコミュニティスクールを考えて行くと、やはり年間の中で、1 週間も 10 日もあるわけではないので、1 日 2 日なら、予定に入れて、あとは服務に関しては考えたらいいと考えます。例で言いますと、左義長とか、いくつかの行事には、ほとんどの教員は参加するのが定例になっております。昔からある地域の中の学校であるのですが、たとえば新興住宅地の学校であつたりとかになると、位置づけていくのは難しいかも知れない。そこは、地域と学校と一緒に、本当に、膝を突き合わせてやっていかないとだめな点かなと、必要なことだと私は思います。

(会長)

ありがとうございます。

(委員)

同じような意見なのですが、管理職として気を付けないといけないのは、働き方改革の部分が大きいので、そこは第一義的に考えます。

先ほどの「ふるさと宇治 21」では、地域の話をしていただきましたが、どの学校においても地域の力というの

は本当に大事だと思います。ただ、先生方に土曜日に参加してくださいということは、正直いって、もう難しい状況です。しかしながら、例えば、本校の小学校区の青少協の催しに行くこともありますが、部活動の延長で行くなどいろんな形で参加することは考えられると思います。

別の委員からあったように、コミュニティスクールが何かの形で導入されてくる中で、学校が地域の中でどのような立場で動くのかということについては、今後、研究が必要になります。勤務時間との関係もありますので、なかなか難しい問題ではあるのですが、なんらかの形で落としどころをみつけていく必要があるのではないかと思います。

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは、最後になりますけれども、議題の3ですね。来年度に向けてということで事務局からお願いします。

3 令和2年度に向けて

事務局 説明

(事務局) 学校教育課より

小中一貫教育の遂行について

ラーニングコーディネーターの全ブロック配置について

令和2年度の小中一貫教育アンケートについて（実施しないことと在り方を検討すること）

(事務局) 教育総務課より

先月の第2回本協議会において、西小倉地域における小中一貫校の要望を受け、委員の皆様には様々なご意見をいただきました。来年度は西小倉地域の3つの小学校と西小倉地域の中学校を一体とした小中一貫教育を実施する仮称、第二小中一貫校の整備の検討をして参ります。

今後におきましては、保護者や地域の方々のご意見を聞きながら、開校場所等を定めていきたいというふうに考えています。つきましては、来年度以降、様々な観点から、また委員の皆様のご意見をいただく機会があると思いますので、その際にはぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

(会長)

はい、ありがとうございます。それでは、来年度のことも含めてご説明頂戴しましたけれども、あるいはこの間もいろいろお話いただきましたけれど、しばらくまたお会いできないかと思ひますので、来年度に向けて、こんなふうに小中一貫教育考えて行くべきでないかとか、あるいはこの、本協議会の進め方、在り方なども考えてもいいかも知れませんので、ご意見ありましたらどなたからでも頂戴していきます。

(委員)

小中一貫の西小倉の件、調査費が計上されておられますけれど、このあとどんな流れになりますか。

(事務局)

まだ具体的にどうこうというのは、実のところ決まっておられません。ただ、来年度に向けてやっていくということは、開校場所をどうしていくのかということをございますので、その辺の部分については地元協議に入らせていただいて、様々な意見を聞きながら、最終的に市教委で判断していきたいというふうには考えております。

(会長)

時間的なスケジュールというか、何年先とか、そんなのは全然ですか。

(事務局)

今後、実際のところ、スケジュールというところをございますけれども、たとえば場所がまず定まらないと、どういった建物になっていくのか、あるいはどういう建て方にするのかというところで、まだスケジュールとかはお示しできるような状況ではないというのが実情でございます。

(会長)

はい、ありがとうございます。ほか、何かありますか。

(委員)

大体見通しとして流れとしたら、どれぐらいの年数がかかるのですか。

大体、建物を解体して建てるということになりますので、大体3年ぐらいかかるのです。その前段で、ここで統廃合とかが入って参りますので、当然その時は地元と協議しながらということになりますので、その協議期間がどれだけかかるかによって、大きく変わってくるのかなというところではございます。

(委員)

具体的には、地元で、いろいろご協議いただくことにはなってくるとは思っています。今言っていますように、どこにどうやって建てるかによって、今いる学校の子どもたちを動かすのか動かさないのかというようなことも出てくるので、それでもう1年2年変わってくるというのがありますが、今そういったことで、「校舎を残して次、建てられるのか」とかいろんなことによってちょっと変わってくる。

(会長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

今年からラーニングコーディネーターとなったというのがあって、やっぱり学力をどうつけていくかというのが菟道第二小学校でも課題ですし、それを小中でどうしていくか、ということなのですが、難しいのですけれど、なんとか知恵を絞りながらやっていきたいなと思っています。

(会長)

冒頭の教育長のほうから、全面実施になって8年目が終わるというお話もございましたけれども、この協議会も重ねて来て、西小倉地域の動向ということも視野に入って来ますし、何と言いますでしょうか、マンネリにならないように我々もより新しい着眼を得て、学校に伺って見せてもらったり、あるいは、先生方のご努力を拝見したり、またご意見申し上げたいというようなことで、いずれかのブロックの報告でもございましたけれど、メリハリをつけて、さらに協議会が続くということなので、そういう新鮮な目を、眼差しをもってあるいはご意見を申し上げられればありがたいなと思っておりますので、またご意見ございましたらご協力よろしくお願ひしたいと申します。

それでは、以上で報告及び教育事項が終わったかと思っておりますので、事務局にお返しいたします。

閉会挨拶

・伊賀部長より閉会の挨拶